

いま注目の商品、話題の商品を紹介

SEIKO



優美な艶を描く、白磁の有田焼ダイヤル セイコー プレザージュ

日本の美意識を世界に向け発信する「セイコー プレザージュ」から登場した、伝統技法の探求により優美な艶やかさと滑らかな曲面を描く立体造形を実現した白磁の有田焼モデルが発売され、人気となっている。

本作で初めて採用された立体的な湾曲をもつ白磁ダイヤルは、僅か1mm程度の厚みの中で、柔らかな高低差を表現している。

創業190年以上の老舗「しん窯」に所属する陶工 橋口博之(はしぐち ひろゆき)氏監修のもと、有田焼の伝統的な鑄込み成形の探求により、薄さの極限に挑むことができた。釉薬で表面を仕上げた磁器特有の立体感が、艶めく光沢と柔らかな陰影をもたらす。さらに青いインデックスと針が、透き通るような純白の白磁に彩りを加え、その美しさを一層引き立てている。

艶やかな磁器の魅力を表現するセイコー独自の有田焼ダイヤルは、腕時計としての耐久性を実現するため、長い研究開発期間を要した。日本が世界に誇る伝統と技術が融合したこの有田焼ダイヤルは、従来の4倍以上の強度をもつ高強度の磁器素材を用いている。さらに超高精度の鑄型による鑄込み工程を経て、1300°Cの高温で焼成し、その後、施釉と複数の焼成を重ね、難易度の高いプロセスを経て完成する。

搭載されるキャリバーは、ダイヤルの端正な美しさを引き出す「6R31」。コンパクトな自動巻き機構と約70時間のパワーリザーブを有するため、週末の金曜日にぜんまいを最大に巻き上げておけば、着用せずとも月曜日の朝、そのまま使用可能な実用性を備えている。価格は198,000円。

ダイヤルに日本の伝統工芸 漆塗り用いた世界限定2000本 セイコー プレザージュ

幻想的な金沢の情景を、日本の伝統工芸である漆塗りをを用いて緑で表現したダイヤルをもつ全世界2000本の限定モデルが、「セイコー プレザージュ」から登場し話題となっている。

金沢漆器の技法を駆使して作品を生み出す地、金沢の北陸特有の環境と美意識が育む夏の情景をテーマとし、特有の深みのある艶やかな緑色の漆ダイヤルで、幻想的な苔庭を表現した。ここに降り注ぐ夏の木漏れ日を、「金色」で演出している。

海外では漆や漆器を「Japan」と表記することも多く、「漆」を用いた日本の伝統工芸品は、その美しさと実用性が高く評価されている。

漆ダイヤルを用いた本作は、漆芸家 田村一舟氏の審美眼に基づく、脈々と受け継がれる伝統技法と現代の製造技術の融合により実現したモデルだ。

金属と漆を直接結びつける革新的な製造手法と、平滑面を生み出す古来伝承の技を組み合わせる仕上げのダイヤルは、多くの漆器職



人が携わり、何十回も塗りと研ぎを繰り返すことにより生み出された。また、漆は硬化せずに硬化を続けるため劣化せず、耐久性が半永久的に高まり続ける特性をもっている。ダイヤルに塗る漆は美しい光沢をたたえつつも、針の動きを妨げない厚みに仕上げるため、高度な技術が必要とされる。

日付、曜日、パワーリザーブを、それぞれ扇形に動く針で表示するキャリバー「6R24」を搭載。日々、異なる表情を楽しめる。価格は220,000円。



メカニカルダイバーズ現代デザイン Save the Oceanモデル セイコー プロスペックス

1965年に発売されたセイコーによる国内初のダイバーズウォッチは、南極観測隊越冬隊員の備品として寄贈され、その信頼性が実証された。さらに、ダイバーズウォッチのみならず、アドベンチャーウォッチやパイロットウォッチに通ずる、セイコー特殊時計開発の原点になっている。

そんなセイコーダイバーズの原点といえる1965年のモデルの半世紀を超える歴史や培われてきた技術の積層を、長い時間をかけて形成された氷河と重ね合わせ、ディープブ

ルーのダイヤルとソリッドなブラックのベゼルで表現したセイコーグローバルブランドコアショップ専用の「1965 メカニカルダイバーズ現代デザイン Save the Oceanモデル」

(SBDC165)が人気を集めている。

なお、同モデルは6月から放映開始されているセイコープロスペックスの新CM「SHO-TIME」で紹介されており、老若男女に愛されるロサンゼルス・エンゼルスの大谷翔平選手が同CMに起用されていることもあり、注目度の高い売れ筋商品となっている。価格は148,500円。

また、セイコープロスペックスは、これまでセイコーダイバーズを愛用するダイバーや大いなる海へ感謝の気持ちを込め、様々な海洋保護活動を支援している。

セイコーは、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)の目標14「海の豊かさを守ろう」を念頭に、今後も活動を継続していく。